

高齢者人口の地域差、将来に渡って拡大

国会図書館がまとめた地域別将来人口推計のデータを用いて、全国の全市町村75歳以上人口を2015年と2020年、2025年、2030年、2035年、2040年をそれぞれ比較しました。関東、中部、近畿、四国で似た傾向を示しました。

市町村別75歳以上人口の推移は全国でばらつきが出ています。中心地で増加、地方で減少傾向を示しています。高齢者の増加は2025年までに急速に中心地に集中し、その後も広域に増加します。高齢者の減少は2040年までに奈良県や和歌山県の山間部を中心に進みます。

1. 高齢者人口地域差

75歳以上人口を全国市町村別に2015年と2020年で増加率を計算し地図上に塗り分けました。(図1)高齢者は中心地で増加し、地方で減少していることが分かりました。今回は近畿地方を紹介します。増加率最大の市町村は1.34、最小の市町村は0.82で、その差は**0.52**でした。増加率1を超えれば高齢者人口の増加を示し、1を下回れば高齢者人口の減少を示します。

国土地理院承認 平14総撰 第149号

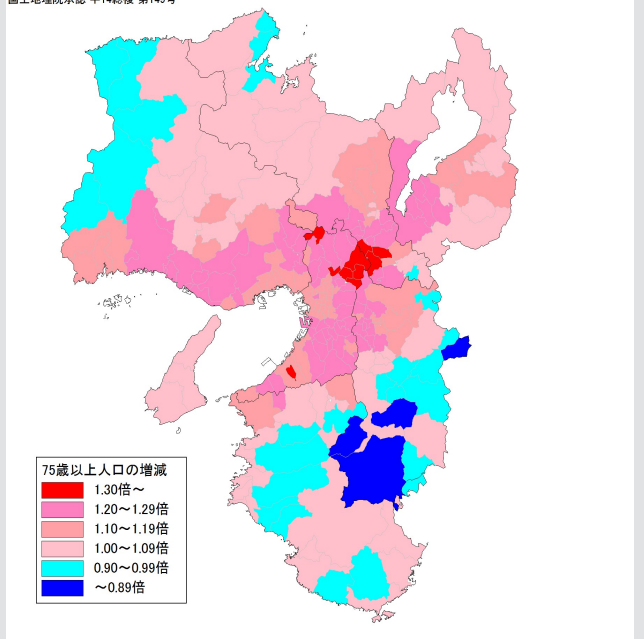


図1. 2015-2020年比較

2. 地域差拡大

近畿地方における75歳以上人口を2015年と2020年、2025年、2030年、2035年、2040年でそれぞれ比較し地図上に塗り分けました。(図2-5)中心地で増加し、地方で減少する傾向は顕著になっていくことが分かりました。増加率の市町村差は2025年で**1.00**、2030年で**1.22**、2035

年で**1.50**、2040年で**1.72**と年ごとに差は拡大することが予測できます。

近畿地方においては2040年までに高齢者の人口は増加しますが、特に山間部では高齢者の人口減少が進みます。

3. 医療・看護体制にも地域差

中心地で高齢者の増加によって医療サービス、看護師のニーズが高まります。一方、高齢者が減少する山間部は患者、利用者の減少によって病院や施設等の経営は圧迫されます。これからの医療、看護の在り方を地域ごとに区別して見直す必要があります。

国土地理院承認 平14総撰 第149号

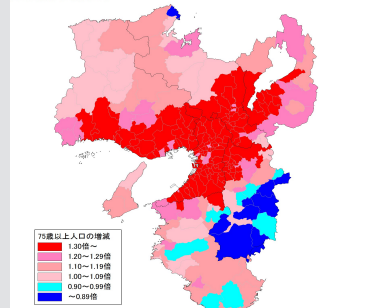


図2. 2015-2025年比較

国土地理院承認 平14総撰 第149号

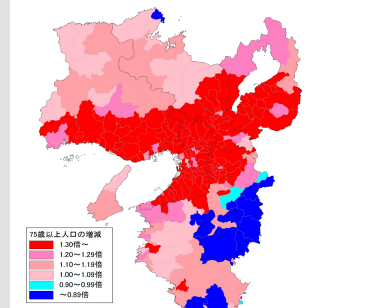


図3. 2015-2030年比較

国土地理院承認 平14総撰 第149号

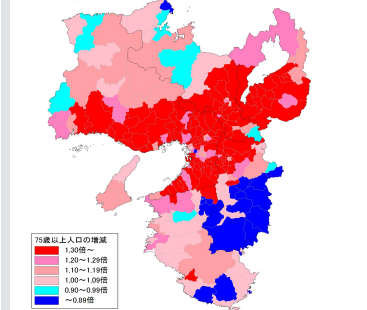


図4. 2015-2035年比較

国土地理院承認 平14総撰 第149号

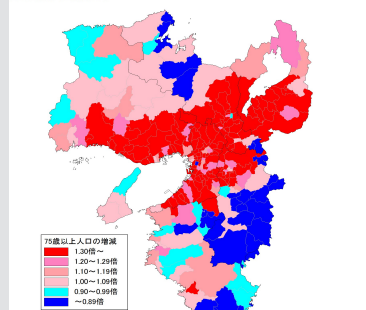


図5. 2015-2040年比較